



授業選択に必要なことが記載されており、卒業するまで使用する「履修要項」。大学開学3年目の1953(昭和28)年は「講義題目」と呼ばれていた。その後、名称が「受講要項」に変わり、2006(平成18)年には現在の「履修要項」に変更されている。「履修要項」はWeb上でも公開されており、いつでも閲覧することができる。

「講義題目」から「履修要項」へ

シラバスは冊子からWebへ

授業内容や到達目標などさまざまな授業に関連する情報が集約されている「シラバス」。学部ごとに作成されていた時代や、分厚い冊子の時代もありましたが、紙媒体での発行は廃止され、現在は「My KONAN」と呼ばれるポータルサイトで閲覧することができる。



学部ごとのシラバス

全学部で一冊にまとめたシラバス

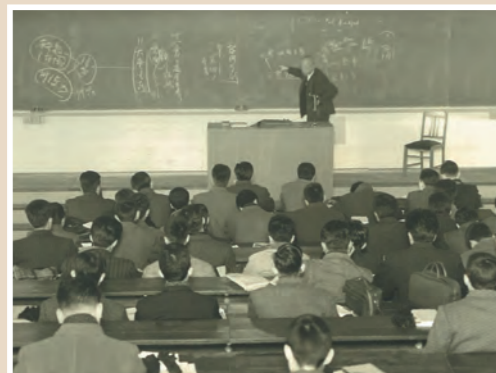
学則の今昔

1953(昭和28)年当時の学則第6章(現在は第5章)「学年・学期及び休日」では、前期終了が現在よりも1か月ほど長い。

1953年当時	現在
<p>第6章 学年・学期及び休日</p> <p>第16条 学年へ4月1日=始まり翌年3月31日=終ル。</p> <p>第17条 学年へ左ノ2学期=分ケル。</p> <p>前期 4月1日カラ10月15日マデ。</p> <p>後期 10月16日カラ3月31日マデ。</p> <p>第18条 日曜日、祝日、本学創立記念日=休日トスル。</p> <p>左ノ期間へ授業ヲ休止スル。</p> <p>夏季 7月11日カラ9月10日マデ。</p> <p>冬季 12月25日カラ1月7日マデ。</p> <p>春季 3月15日カラ4月10日マデ。</p> <p>前2項=定メテモノ他=必要=応ジ学長=臨時=授業ヲ休止スルコトガナシ。</p>	<p>第5章 学年、学期及び休業日</p> <p>第18条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終る。</p> <p>第19条 学年は、前期・後期の2学期に分ける。</p> <p>前期 4月1日~9月30日</p> <p>後期 9月17日~3月31日</p> <p>第20条 休業日を次のとおり定める。</p> <p>(1) 日曜日</p> <p>(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第175号)に規定する休日</p> <p>(3) 本学創立記念日(4月21日)</p> <p>(4) 定期休業日、冬期休業日は学年等によるものとする。</p> <p>2 学長は、学年等編成上必要ある場合は、前項の休業日を授業日に変更することができる。</p> <p>3 学長は、必要に応じて臨時に授業を休止又は変更することができる。</p>

1953年当時

現在

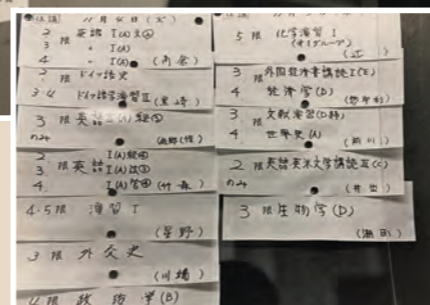
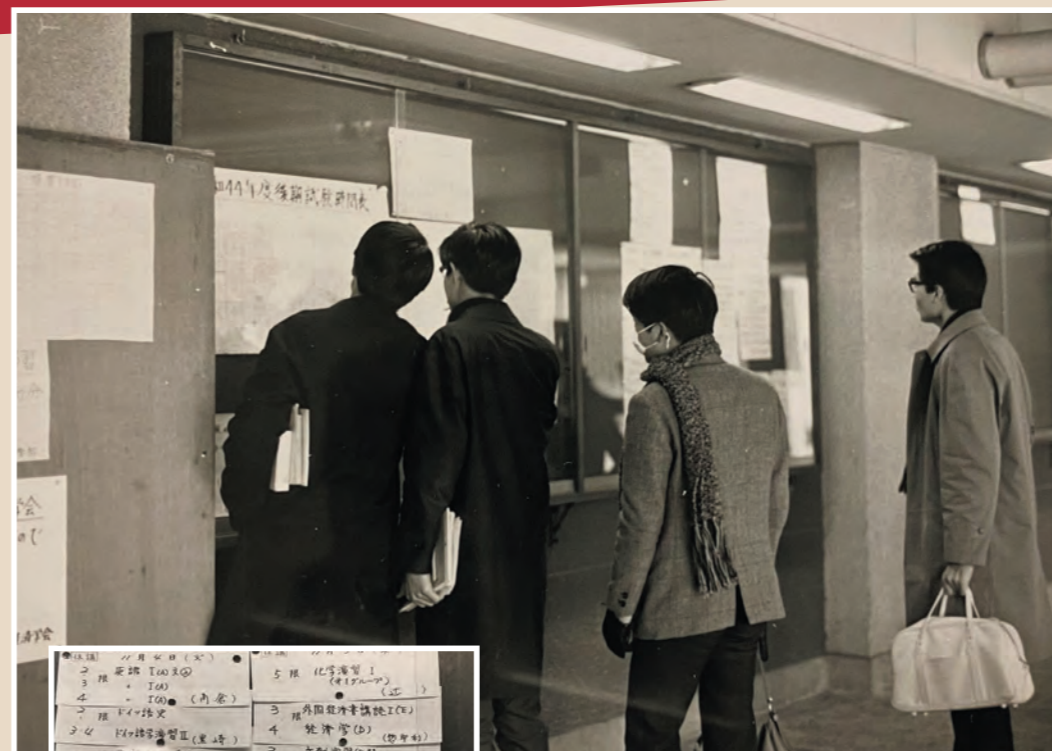


約60年前の授業風景



新入生への受講指導

右の写真は1970(昭和45)年ごろの受講指導の様子。現在も入学生を対象に実施されている。左の写真は1961(昭和36)年ごろの授業風景。



貼り出された休講情報

総合掲示板を見る学生たち。写真は1970(昭和45)年ごろ。必要な情報は紙で貼り出されており、登校時はまずそれらを見に行くのが日課であった。休講情報は当日掲示板を見て、初めて知ることも多くあった。

情報伝達は総合掲示板で

現在のキャリアセンターは1970(昭和45)年当時「就職指導部」と呼ばれており、会社説明会の案内や求人票などは廊下にある掲示板に大量に貼り出されていた。



求人票で埋まる掲示板

現在の図書館前



学生にも活用された図書館前の掲示板

図書館前の掲示板にもたくさんの案内が貼られていたが、現在この場所の掲示板は撤去されている。

甲南
新解
書体

#04

掲
示
板

覚えていますか？

駅に伝言板があった時代は情報共有もおおらかでした。期待をふくらませた入学宣誓式。配付されたたくさん資料の中にあつた分厚い冊子を覚えていませんか。コロナ禍でWeb化が推進され、授業もオンラインに変更されるなど、大学を取り巻く環境にも大きな変化がもたらされました。では、当時はどのように大学からの情報を得ていたのでしょうか。昔はあつて、今はないもの、現在も変わらずあるものなどをさまざまな視点から紹介します。